日本が国際連盟を脱退する前年の（1932）年、5月15日

五・一五事件

が起こった。

昭和恐慌による不景気が続く中、（ロンドン海軍軍縮）条約に不満をもった（海）軍の青年将校を中心とするグループが、首相官邸、日本銀行、立憲政友会本部、警視庁などを襲撃した。

↓

「満州国」建国に反対していた

（犬養毅）首相を暗殺した。

最期の名シーン→

「話せばわかる」と銃を向けている海軍兵士を応接室に案内し、武力ではなく話し合いで解決しようとしたが、後から襲ってきた別の兵士に銃撃されました。

余談

それでもなお、近くにいた女中に「今の若い者をもう一度呼んで来い、よく話して聞かせるから」と言い、最後まで話し合いによる解決を望みましたが、その後死亡しました。

↓

当時の新聞は、犯人らの減刑を訴え、この報道にあおられた国民の間で減刑を願う声がおこり、将校らの処罰は異常に軽いものとなりました。

事件の後、加藤高明内閣以来「憲政の常道」として続いていた（政党内閣）の時代は終わりました。

このことが4年後に起こった（二・二六事件）を後押ししたといわれている。